



とびっくす No.41

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/>)



隠岐西ノ島の浜にイカの大群が押し寄せてきた



イカがきた～

平成21年1月23日の夜、隠岐郡西ノ島町浦郷地区にある由良湾の浜にスルメイカが大挙して押し寄せてきました。水産技術センター栽培漁業部職員の話によると、午後7時頃に第一波がやってきました。その後も幾度か押し寄せ、この嬉しい悲鳴は午後11時頃の深夜まで約4時間に渡り続き、おおよそ数千尾が拾われたそうです。午後7時頃と言えば、辺りは真っ暗闇、また騒音といえば時折車が通り過ぎるくらいで、ほとんどの人が仕事を終え、こたつに入って一家団欒の真っ最中と言ったところでしょうか。異状に気づいたきっかけは、海辺近くの住人が「クシュッ、クシュッ」という異様な音を聞き、外に出て浜辺をライトで照らしてみると、何と大挙したスルメイカが波打ち際を埋め尽くしているではありませんか。たちどころに、皆さんこぞってのイカ捕り物騒動?の開始となった次第です。



2006年2月5日に波打ち際に押し寄せたスルメイカ(大半が持ち帰られた後の光景)

※「写真左」左上には観光用に建てられた番小屋が見える。

※「写真右」押し寄せられたスルメイカのクローズアップ。

このような珍現象は3年前の2月5日にもありました(西ノ島町広報誌にしのみま2006年、3、No. 401)。このときも、およそ5,000尾のスルメイカで浜が埋まり、まるで絨毯の上を歩いているようだったそうです。なかでも多く獲った人は軽トラックに山積みして持ち帰られたそうです。今回は夜間のみ現象だったため、残念ながら写真の撮影は行われませんでしたので、ここでは3年前のときの写真を紹介します。

イカ寄せの浜

ところで、この浜は昔から冬になるとスルメイカの大群や食用のイカとしては最大のソデイカ（大きなものでは体重が20kgを越える）などが押し寄せることから「イカ寄せの浜」と呼ばれています。このことは隠岐西ノ島アルバム「運河のある町」に、現代の伝説「いか寄せの浜」として次のように紹介されています。『由良比女命が洋上はるばる芋桶に乗ってお渡りになるとき、ある日長い海路のつれづれに海潮に手をおひたしになると、いかどもが比女命の手をひき、いたずらをした。その罪を謝するために比女命が由良へ鎮座あそばされてから、毎年由良の浜へいかが寄ってくるという。（由良比女神社伝・浦郷町史より）』全国でも数少ないイカにまつわる伝説です。

何故押し寄せられるのか

いつイカが押し寄せてくるか分からないため、以前は、番小屋を建てて待ち構えていたこともあったようです。イカがよく来たのは昭和30年代までで、昭和40年代に入ってから随分その頻度が少なくなっているようです。では、何故このような珍しい現象が起こるのでしょうか。昭和35年に国の水産研究所の調査により、スルメイカの大群が押し寄せる現象は、交接行動（集団結婚）が原因のひとつであることが明らかになりました。また、下に示した写真でも分かるように、イカ寄せの浜は湾奥部に位置し、待ち受け漁法である天然の定置網のように一度入ったら出られないような迷路のような地形にも見えます。この地形も大きく影響しているものと思われます。これまでに、スルメイカやソデイカ、キュウリエソなどが大量にこの浜に打ち寄せられたことがあります。また、イルカも迷い込んだこともあります。

さて、次はイカさんいつ来てくれることでしょうか？それはイカのみぞ知ること。西ノ島の皆さんは自然の恵みに感謝しながら、珍客万来を心待ちにしています。獲れたてのイカの刺身は旨い(^_^)v、自分もイカねばならぬと思われた方、是非ご来島をお待ちしています。



迷路のような湾奥部に位置するイカ寄せの浜

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1
TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079
ホームページ: <http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/>
E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp